

会長挨拶

杉本 仁詞



昨年度、平成28年度は、鳥取県小学校長会が発足して70周年という区切りの年でした。昭和21年に、先輩校長先生方が各郡市小学校長会を連合し、初等挙育の発展に寄与すべく、校長の職能の向上を図るために、この小学校長会を発足させられました。そして、教育の充実・発展のために全身全霊を傾けて、活動を積み重ね、70年という年を刻んできました。その、節目の年の昨年度は、学習指導要領の改定も視野に入れながら、校長会の活動方針の見直し、各専門部等を中心として取組を充実させていただきました。

教育研究部では、校長教育研修会で、ボイスリサーチ代表取締役の深田様に「起業と人材育成」というテーマでのご講演で研修を深めることができました。そして、その後の課題別研修では、平成27年度のアンケートから討議の柱を設定し、校長の果たすべき役割、指導性を究明することができました。大変充実した討議ができました。先輩校長先生方の「校長のあるべき姿」を求めてこられてきた70年という歴史の積み重ねがあり、そして、校長先生方のさらなる校長の職能向上を求める熱い思いがあって、質の高い大変充実した討議となったと思いました。

対策部では、今までの積み重ねの上に、中学校長会との連携を大切に、全連小の動きも注視しながら、県教育委員会との意見交換会、懇談会をもっていただきました。まず、全連小との連携のもと要望してきました通級指導、外国人指導のための教員の基礎定数化の実現は、全国の声が届いた大きな成果だと思いました。教員採用試験制度については、年々、工夫改善が図られてきています。教職員評価・育成制度については、本年度、県教育委員会ではプロジェクト会議を設置し、より充実した制度とするための検討を行うということです。また、校長の再任用は来年度実施の方向で検討されるということです。県教育委員会において、校長会の声を反映させていただいていることに感謝したいと思います。

広報部では、活動方針を踏まえての会報、会誌の発行をしていただきました。特に、会誌：伽羅木は、結成70周年記念、特集号50号ということでの発行でした。平成19年度から平成28年度までのあゆみ、記録・資料等、入れていただきました。特集号に相応しい大変、充実し、資料的価値の高いものにしていただきました。県立図書館から提供を求められたということです。

また、校長間の連携の絆を深め、凝集性を高めたいと、念願でしたホームページを立ち上げることができました。そして、キーワードを「育成」として、各校長先生方、各郡市校長会で取り組んでいただきました。中国地区小学校長教育研究大会広島大会では2名の校長先生が素晴らしい実践を発表されました。本当に、70周年に相応しい充実した校長会の活動となりました。本当にありがとうございました。

さて、平成29年度、今までの取組を礎に、活動方針のもと、さらに充実した取組ができたと思います。平成31年度には、中国地区小学校長教育研究大会鳥取大会が開催されます。それに向けて、本年度から平成31年度に向けて、3年連続の研究大会で実践を積み上げていきます。本年度は、全国大会で1名、中国大会で2名、県大会で10名の校長先生方が発表されます。鳥取県小学校長会の総力を挙げて、素晴らしい実践を積み上げていくことで、それぞれの校長の職能の向上を図っていき、子どもたち、教職員に還元していきたいと思います。

また、本年度もキーワードを「育成」としました。小学校では、今年、50歳になる教員を含めると、50歳以上の教員は約45%ということです。10年程で、半分近くが経験10年以下の教員で構成されるということです。本当に、魂を込めて、全身全霊で、「育成」に努めていきたいと思います。私たちも多くの先輩方から指導していただき、学んできました。子どもたちのために、先生方が育っていただくために、惜しみなく伝えていきたいものだと思います。

「教育は校長なり」です。いろんなことがあります、それを校長自身の評価・校長として成長できる機会として受け止め、「教育は校長なり」という気概とわくわく感をもって、リーダーシップを発揮して、学校経営を行っていききたいものです。

鳥取県小学校長会、連携の絆を一層深め、協働性の質を高め、子どもたちのために頑張っていきたいと思います。宜しく申し上げます。